

## 第4学年の取組

### 1. 目指す児童像

学習課題を見通して自分の考えをもち、友だちの考えと比べながら考えを深める児童

### 2. 研修主題にかかわる身に付けさせたい力と児童の実態

児童の実態	身に付けさせたい力
<p>①学習課題を見通して、自分なりの考えを持つことができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を見通して、進んで考えをもつことは難しい。意欲はあるが、どうすればよいかわからず、受け身になっている。</li> <li>・既習事項を生かして、自分なりに考えをもつことのできる児童は多い。</li> <li>・言葉で自分の考えを表現しようとする児童が多く、わかりやすく説明できないので、ひとりよがりの考えにとどまってしまうことがある。</li> </ul>	<p><b>【社会科】</b></p> <p>○必要な資料や情報を見つける力 (①)</p>
<p>②学習課題を解決する場面で、交流活動を通して自分の考えを広げ、深めることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えはある程度持てるが、解決の過程を表現することが難しい。</li> <li>・自分の考えと友だちの考えを比較するのは難しい。</li> </ul>	<p>○資料や情報から事実を読み取り、よりよい考えを導く力 (①②)</p>
<p>③課題解決的な学習を振り返って、自分の考えをまとめたり、修正したりすることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習で、何が大事なことだったのか自分なりに見極めるのが難しい。</li> <li>・社会的な生活経験の不足から、物事を自分の立場からしか考えられない傾向にある。</li> </ul>	<p>○読み取った事実や集めた情報をもとにまとめる力 (②③)</p>

3. 目指す児童にせまるための手立て  
【社会科】

【社

① 揭示

物や ICT 機器を活用して、学習内容を可視化するようにし、既習事項を生かして自分の考えを持てるようにする。

考えを持


- ・既習事項のどこにつながる学習なのか、見通しをもつ。
- ・既習事項の中から、学習課題に生かせる資料や情報を見つけ出す。
- ・必要な資料や情報から推察して、大まかに自分の考えをもつ。

＜導入にパワーポイントを用い、既習事項を確認しながら学習の見通しを持たせた例＞

順位	市町村名	1人1日当たり排出量
1	桐生市	1197
2	渋川市	1196
3	藤岡市	1126
4	みどり市	1119
5	沼田市	1114
6	太田市	1051
7	前橋市	1049
8	館林市	1048
9	高崎市	1043
10	富岡市	1042
11	安中市	999
12	伊勢崎市	991

出典：「環境省平成25年度一般廃棄物処理実態調査結果」より抜粋

このままでは  
きれいな  
桐生市には  
できない！！



桐生市はゴミが多いな。  
ゴミを減らすには  
どうすればいいかな。



②自分の考えを深めるために、学習形態や場の設定を吟味して、交流活動を取り入れる。

- ・自分の考えをはっきりさせるために、資料や情報を生かして根拠を明らかにする。【個】
- ・自分と友だちの考えと比べ、考えを広げたり深めたりするために交流活動を取り入れる。

小グループ、同じ考えをもった者同士、または違う考えをもった者との話し合い、全体

- ・目的に応じて学習形態を選択して交流活動を取り入れ、自分の考えを深められるようにする。



＜同じ考えの児童の児童を見つけ、自由に交流活動をしている場面＞

同じ考えの友だちの話を  
聞いてみよう。  
やっぱりぼくの考えと  
にているなあ・・・

聞いてもらおうと  
自信が持てるね



③もう一度自分の考えを振り返り、考えの変化を実感できるように、まとめさせる。

- ・自分と友だちの考えを比較してまとめる時、「何が大事なことだったのか」「自分と友だちの同じところや違うところはどこか」など、まとめるポイントを示す。
- ・学習課題にそって自分の考えがまとめられたか、振り返る。

#### 4. 授業実践

### 算数科学習指導案

平成28年6月17日（金）第4校時

4年組 指導者 小林 政美

身に付けさせたい  
力 調べたことを生かして、よりよい考えを導く力

#### 授業の視点

対角線について、自分で調べて考えをもち、更にグループで話し合っ  
て対角線の性質をとらえさせたことは、自分の考えを広げるのに有効であったか。

1. 単元名 「いろいろな四角形」

2. 単元の目標

○図形についての観察や構成などの活動を通して、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目し、  
図形についての理解を深める。 [C(1)]

3. 本時の学習 (13 / 16)

(1) 本時のねらい 対角線の定義を知り、いろいろな対角線の特徴がわかる。

(2) 準備 掲示用図形、フラッシュカード、ワークシート、分度器、三角定規、コンパス

(3) 展開

学習活動	時間	支援および留意点	評価項目	
1. いろいろな四角形の対角線を結ぶ。 2. 対角線の特徴を知る。	10分	・6つの四角形の向かい合った頂点を直線で結び、気づいたことを話し合わせる。 ・用語「対角線」と四角形の対角線が2本であることを知らせる。		
それぞれの四角形の向かい合った頂点を結ぼう。				
2. それぞれの四角形の対角線の性質を調べる。	10分	・まず、児童一人一人の考えで対角線を調べさせる。 ・調べる中で気づいた性質から、どんな観点で調べるとよいかグループで話し合わせる。	[考] 対角線の特徴から図形の性質を見直している。 (記述、発言)	
めあて 四角形の対角線には、どんなひみつがあるか調べよう。				
3. 対角線の性質を用いて、図形を分類する。	10分	・グループで、対角線の性質を長さや交わり方、等分になっているという観点で、6つの図形を分けさせる。		
4. 本時の学習のまとめをする。	15分	・対角線の性質についてわかったことをノートにまとめさせる。		
まとめ 四角形の対角線は図形によっていろいろな性質がある。				
5. 練習問題をする。		・対角線の性質を用いて、ひし形をかかせる。		

(4) 校内研修とのかかわり

対角線を調べる観点や図形の分類の仕方を話し合うことで交流活動を取り入れ、児童が自分の考えを広げる手立てとした。

#### 4. 本時の反省

対角線の性質を用いて四角形を分類させる際、グループで調べる観点を考えて見通しを持たせたかったが、児童には難しかった。調べる観点を示して交流活動を行った方が、時間をかけて話し合うことができ、四角形の性質をよりしっかり理解できたと考える。

身に付けさせたい力

拍子やリズムの特徴を感じ取りながら拍の流れにのって表現する力

<授業の視点> 8分の6拍子の拍子感や歌詞の内容を感じ取り、曲想を工夫して歌うために、曲の山を見つけたり、旋律の強弱を考えたりすることは有効であったか。

- 1 題材名 拍の流れにのってリズムを感じ取ろう  
教材 「いろんな木の実」「ブラジル」「まきばの朝」「風のメロディー」「言葉でリズムアンサンブル」
- 2 題材目標  
○拍やリズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れにのって表現する。  
○リズムの組み合わせを工夫したり、反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かしたりして言葉のリズムアンサンブルをつくる。
- 3 本時の学習(8/5)  
(1) 本時のねらい 8分の6拍子の拍子感や、強弱の変化が生み出す曲の山を感じ取り、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかを考えることができる。  
(2) 準備 ワークシート 楽譜  
(3) 展開

学習活動	時間	○指導上の支援および留意点	評価項目
1、「風のメロディー」を歌い前時までを振り返る。	5	・姿勢や口の開き方に気をつけさせ、8分の6拍子を感じながら歌わせる。	
2、曲の山がどこか、ワークシートの旋律の動きをなぞりながら考える。	10	・既習事項である曲の山の説明をする。 ・拡大楽譜を用意し、1段目を一斉に取り組み、学習課題を共通して持てるようにする。 ・拡大楽譜で旋律の動きをたどらせながら歌わせる。 ・曲の山を全体で確認し既習事項だけでは表現しきれないことを伝える。	
3、本時の目当てを知る。			
「風のメロディー」に合った強弱を工夫しよう。			
○強弱記号を使い、歌い方を工夫する。	10	・強弱記号を全員で確認する。 ・曲の盛り上がりは3, 4段目であることを伝える。 ・1番の気持ちの盛り上がるの場所を児童に確認することで強弱の工夫をしやすいようにする。	【創②】8分の6拍子の拍子感や、強弱の変化が生み出す曲の山を感じ取り、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えを持っている。
○強弱記号を生かした3, 4段目の歌い方を、グループで工夫する。	17	・個人により曲想の作り方は、いろいろな考えがあつていいことを伝える。 ・3, 4段目の楽譜をグループに配り、個人の意見を書き込みながら意図を伝え合わせたり歌わせたりする。 ・伴奏や演奏のみの音源を流し、曲想を付けやすいようにする。 ・各グループで歌う人、聴く人の役割を決め、感想を伝える活動を取り入れるようにする。	

4、本時のまとめ ○全員で「風のメロディー」を歌う。	3	8分の6拍子の揺れるようなリズムと強弱を表現するために、指揮を振ったり身体表現をしたりして歌わせる。
-------------------------------	---	--

(4) 校内研修とのかかわり

「風のメロディー」の3、4段目の歌い方をグループで工夫をすることで、個人の意図を伝え合ったり、歌いあい、それを鑑賞しあったりすることで、自分の考えを持つ手立てとした。

#### 4 本時の反省

グループの交流活動の内容と交流時間の設定に問題があり、活動の半分も行えなかったグループが多かった。

### 算数科学習指導案

平成28年11月21日(月)第4校時

4年組 指導者 荻野 貴法

身に付けさせたい力

既習事項を生かして、本時の課題の解決方法を導き出す力

授業の視点

複合図形の面積の求め方を考える場面で、グループで考えを交流させる活動を取り入れたことは、自分の考えを広げるのに有効であったか。

#### 1. 単元名 面積

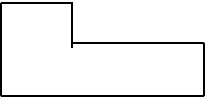
2. 単元の目標 面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにする。

#### 3. 本時の学習 (5/10)

(1) 本時のねらい 長方形や正方形の面積の求め方を活用して、複合図形の面積を求めることができる。

(2) 準備 複合図形の提示資料、ワークシート、ヒントカード

(3) 展開

学習活動	時間	支援および留意点	評価項目
1. 本時の学習課題を把握する。	10分	・既習事項である長方形と正方形の面積の求め方を確認する。	
		階段の形をした図形の面積の求め方を考えよう。	
2. 問題[5]の面積の求め方を考える。 	10分	・児童一人一人が自分なりの考えをもつことができるように、考えがまとまらない児童に対してヒントカードを用意して支援をする。	【考】 複合図形の面積を既習事項を活用して求めることができる。(記述)
3. 考えた面積の求め方をグループで発表しあい、全体で確認する。	15分	・グループで発表する際に、どのような観点で話し合いをするのかをしっかりと確認する。 ・全体で考えを確認する際に、いつでも使える考え方はどれかという観点でまとめていく。	
4. 本時の学習のまとめをする。 5. たしかめよう	10分	階段の形をした図形の面積は、図形を分けたり、足りない部分補って引いたりして求めることがで	

の問題に取り組む。	きる。 ・本時で学んだ考えを活用して面積を求めることができるように、机間支援を行う。	
-----------	---	--

(4) 校内研修とのかかわり

複合図形の面積の求め方を考える過程で、グループでの交流活動を取り入れ、児童が自分の考えを広げ、深める手立てとした。

4. 本時の反省

児童全体で問題の解き方を考える際に、考えを広げるだけ広げて終わるのではなく、集約する観点を与えながら全体で考えをまとめることができた。確認問題が少し難しかったので、もう一つ簡単な問題で確認をしてから確認問題に取り組ませる必要があった。

5. 成果と課題 (○・・・成果 ●・・・課題)

【社会科】

○学習内容を可視化したことで、児童が自分の考えの見通しが持ちやすくなり、学習意欲の喚起につながった。(①)

○交流活動をする前に、ワークシートに自分の考えをまとめた。ワークシートの内容を工夫し、何を話し合えばいかわかるようにした(①②)

話し合いの前に  
自分の考えを  
まとめておこう。

社会科 ワークシート 11月 日 名前 [ ]  
 めあて [ ]  
 ごみ減量大作戦  
 ぼく・わたしのグループは 赤・青 です。  
 よりくわしく、作戦を立てよう!!  
 1 [ ]  
 2 [ ]  
 3 [ ]  
 4 [ ]  
 5 [ ]  
 6 [ ]  
 まとめ [ ]

○児童間でお互いの考えがわかるように、色カードを使って意思表示したことで、交流が進めやすかった。また、同じ考えの児童を探すのが容易なため、短時間でたくさんの友だちと意見を交換することができた。児童が交流を数多く重ねることで、自分の考えを自信を持って話せるようになっていった。(②)

○話し合いの場の設定を工夫したことで、交流活動が活発に行われ、児童が自分の考えを広められた。

○学習課題に沿って自分の考えをまとめることができた。

(②③)

●毎時間めあてをまとめているため、児童が「1時間ごとの授業は単独で完結している。」と考えている様子が見られる。児童に単元を貫く目標を示して見通しを持たせるとともに、次の授業につながるような、既習事項の提示の仕方が必要である。(①③)

●交流活動を取り入れる際、目的をはっきりさせることが大切である。児童に話し合いのポイントを示したり、ルールを確認したりして、交流させたい。(②)

●児童が交流することで考えを広げることはできても、友だちの考えを聞いて、深めるのは難しかった。ある程度、交流活動をパターン化して練習することが必要だと考える。(②③)

●1時間のまとめで、自分の考えを振り返ることはできるが、自分の考えを深めることが難しい。(③)

【基礎・基本の定着】

○1学期・2学期を通して、漢字コンテストでは、80%以上の得点率の児童が90%を超えている。計算コンテストでは更に高く、80%以上の得点率の児童が93%であるこの結果から、ある程度の基礎・基本は定着したものと捉えられる。

●家庭学習の仕方を活用し、家庭学習1日40分以上を推進している。学校評価アンケートでは「できている」と回答している児童が97%であるが、保護者は1学期より減っており、88%となっている。家庭学習の時間を10分増やしたことも一因と思われるが、徐々に家庭学習への取り組みが意欲的でなくなっている。「リレー自主学习ノート」や「家庭学習日本一周」など児童の意欲を喚起する取り組みを進めていく。